



会 議 録

八幡市教育委員会

開催日時	令和5年1月24日（火曜日） 午後3時～午後4時26分		
場所	庁舎3階 教育委員会室		
出席委員名	小橋 秀生（教育長）	八頭司 めぐみ	
	橋本 陽生（職務代理者）	狩野 理恵子	
	佐野 恵理子		
委員を除く出席者の職・氏名	部長 辻 和彦	教育支援センター所長 濱田 将行	
	部次長 川中 尚	教育集会所館長 畑中 敏之	
	参事 高瀬 栄津子	図書館長 佐野 正樹	
	こども未来課長 長尾 忠行		
	子育て支援課長 成田 孝一	こども未来課主幹 西田 秀美	
	待機		
	学校教育課長 西岡 賢治		
	文化財課長 田制 亜紀子		
	生涯学習課長 辻 博之		

1. 開 会

2. 報 告 事 項

- (1) 令和5年1月1日付こども未来部人事異動について (こども未来課) ※資料1
(2) 令和5年二十歳のつどいの参加状況について (こども未来課) ※資料2

3. 議 題（協議事項）

- (1) 八幡市の教育行政について

4. その他

- ・園、学校訪問について

5. 配布資料について

- ・11月・12月議事録（写し）

5. 閉 会

※次回定例教育委員会

日時：2月22日（水）午後2時15分から

場所：庁舎 5階 会議室2

※学校訪問先 さくら小学校（11：00）



	内 容
[教 育 長]	1. 開 会 それでは、令和5年1月度の定例教育委員会を開催いたします。
[辻 部 長]	2. 報 告 事 項 (1) 令和5年1月1日付こども未来部人事異動について 令和5年1月1日付で人事異動が行われましたので、その内容について、資料1のとおり、報告いたします。
[教 育 長]	今回、教育部からこども未来部と部の名称が変わりましたので、実際のところは、所属職員全員が異動になりますけれども、今回、この資料でお示しさせていただいたのは、いわゆる部署の変わった人事異動のみで、現在のこども未来部に新たに來られた方、そして、他の部に移られた方の一覧でございます。
[橋 本 委 員]	ただ今の報告事項につきまして、委員よりご質問等はございませんか。
[辻 部 長]	「教育委員会」という名称と、「こども未来部」との関係はどのようになっているのですか。名称の使い分けについて、教えてください。
[橋 本 委 員]	今回、市長部局と言いますか、八幡市での異動の場合は、教育部なり、こども未来部となりまして、市長部局の異動でお示しさせていただきましたので、部のほうで入れさせていただいております。教育委員会ということでは、私どもは辞令を受けておりませんので、分かりにくいですが、教育委員会所属で、教育長から任命を受けております。教育長から任命を受けて、こども未来部の部長という形になります。
[橋 本 委 員]	我々は、今までどおり「教育委員」という名称で構わないのですか。
[辻 部 長]	それは、そのまま変更はございません。
[教 育 長]	補足をしますと、教育委員会というのは、地方教育行政法（地方教育行政の組織及び運営に関する法律）に基づいた一つの教育機関としてありまして、その事務局として、以前の教育部が、こども未来部に変ったという位置づけになります。基本的には、大きな組織の改正は無く、名称が変わっただけということになります。教育委員会とその事務局であるこども未来部の関係というのは、かつての教育部と同じ関係、そういうことになります。
[狩 野 委 員]	保育園の先生は、どういうふうに変わられたのですか。こども未来部に所属されていますよね。
[辻 部 長]	私どもと同じで、狩野委員がおっしゃるとおり、こども未来部の職員で、任命権は教育長ということになります。教育委員会の組織に所属することになります。
[教 育 長]	補足をしますと、教育委員会という制度は、地方教育行政法に基づいて、その権限として教育委員会があつて、その中の教育長ということです。けれども、就学前の施設については、その規定には入っておらず、市長の権限としてありまして、それをこども未来部の中に市長の組織として取り込んでいるということになります。ですので、こども未来部というのは、教育委員会という組織と、地方教育行政法上の組織と、市の規定によるこども未来部という組織とが重なって、その中に保育園が入っているという理解であります。
[橋 本 委 員]	そうすると、川中次長の場合は、川中こども未来部次長ということになりますか。それで、辞令等については、すでに皆さん交付されているわけですか。
[川 中 次 長]	はい、そうなります。
[教 育 長]	地方教育行政法上は、教育委員会の職員でありますけれども、八幡市という組織の中では、こども未来部の職員になります。
[長 尾 課 長]	他にこの件につきまして、ご質問等はございませんか。 無いようでありますので、次に、(2)「令和5年二十歳のつどいの参加状況について」、事務局より報告願います。こども未来課。 (2) 令和5年八幡市二十歳のつどいの参加状況について 去る1月9日に行いました令和5年八幡市二十歳のつどいの参加状況につきまして、ご報



	<p>告申し上げます。令和4年4月に成年年齢が引き下げられたことに伴い、これまでの「成人式」から「二十歳のつどい」に名称を変更し、開催をいたしました。今年の内市の対象者は649人、これは令和4年11月1日時点でございます。昨年より95人の減でございました。当日の参加者は、市外からの参加者29人を含む455人で、昨年と比較をいたしますと、80人程、減っております。</p> <p>今年はコロナ禍前と同様の、第一部の式典と第二部の実行委員主催の交流会に戻して開催をいたしました。大きな混乱もなく無事に終えることができました。委員の皆様方におかれましては、お忙しい中、ご出席を賜りありがとうございました。</p> <p>なお、当日は松花堂庭園の入園料を二十歳のつどいの対象者に対し無料としたところ、新成人の対象者が62人、同伴者が66人の利用がございました。</p> <p>簡単ではございますが、報告とさせていただきます。</p>
[教育長]	ただ今の報告事項について、委員よりご質問等はございませんか。
[狩野委員]	感想になりますが、今年度は4つの中学校、全ての二十歳の方が一堂に会するというところで、どのような状況になるのかと思っていました。けれども、すごく天気も良くて、皆さん、二十歳になったという思いで、穏やかな会になったのではないかと思います。ご準備等、大変だったのではないかと思います。どうもありがとうございました。
[教育長]	今回、保護者の方もとてもたくさんお見えになっておられて、一部の式典が始まる前から、「久しぶりやね」って会話を交わされていました。保護者の方も同じ気持ちで、二十歳になれる方のお祝いに、参加されているんだということをひしひしと感じました。これがますます良い行事になっていけばいいなという思いで、感じさせていただきました。どうもありがとうございました。
[教育長]	他に何かご質問・ご意見等はございませんか。
[橋本委員]	私も、感想的なことしか申し上げられませんが、私が感じた一番大きい意味というのは、全員が一堂に会して、主催一回でできたということです。コロナ禍の中で致し方なかったと思いますが、分けて実施していたのが一堂に会してできたということです。非常に大きな連帯感と、八幡市長や来賓の方が述べられる同じ言葉を共有できたこと、そして、同じ八幡市の二十歳のつどいで出会えた者が、その場を共有できたということです。とりあえず、一堂にいろんなものが体験できたという、これが非常に大きい意味だと思います。
[長尾課長]	それから、本当に穏やかな式典になったと思います。そういう意味では刺激がないという言い方は悪いのですが、もう少し何かあってもいいのではないかと考えております。こういう状態になれば、時間が長くなる必要はありませんが、もう少し中身を何か質的な高いものといえますか、せっかく一堂に会して行く、とても大事な場ですので、何かあってもいいのではないかと考えております。これはまた、今後、ご検討いただければと思います。生涯学習のやはり大きな社会教育一貫として、とても大事な場であるということも、活かしていただきたいと考えております。
[橋本委員]	それから、実人数のほうは減っているようですが、出席率については上がっているのか下がっているのか、参考のためにお教えいただければと思います。
[長尾課長]	出席率でございますが、昨年が71.9パーセント、今年については、70.1パーセントと、若干下がってはおりますけれども、ほぼ同じような感じで推移しております。
[橋本委員]	たとえば、私立学校への進学者ですが、そういう方はあまり参加されていないのかどうかということ、またの機会にでも教えていただければと思います。
[長尾課長]	そのことにつきましては、把握することは難しいかと思っております。案内を対象者に出して出席をしていただいているだけですので、そこに私立学校に進学をされた方、公立学校に進学をされた方を把握することはなかなか難しいかと思っております。
[橋本委員]	校長先生が見られたら分かるかもしれませんが、また、機会があったら教えていただければと思います。
[教育長]	他に何かご意見、ご質問等はございませんか。
[八頭司委員]	私も感想になりますが、中学校や小学校の先生達が来られていて、二十歳になった子達が



とても嬉しそうな顔をしていました。お互いに再会を喜び合っているのを見て、八幡の小学校や中学校のことをとても良い思い出として、大人になったんだなと傍から見ていて嬉しく思いました。

[長尾 課長]

第二部の交流会でのことですが、男山東中学校では、「二十歳になった自分へ」と書かれた封書と写真と一緒に配られていました。これは、ご報告までですけれども、中学校ではそういう取り組みをされているところもございました。

[教育 長]

他に何かご意見、ご質問等はございませんか。

[佐野 委員]

私も感想ですけれども、今まで何回か参加させていただいて、橋本委員がおっしゃったように、久しぶりに見た本当に穏やかな、つどいだったと思いました。式典の中でも、以前はいろんな奇声とかありましたが、今回、初めて「ありがとう」という言葉が聞こえて、素直な子ども達が二十歳になっているというのを、すごく感じました。

それから、去年も同じですけれども、実行委員さんを選ぶのがすごく大変で、ご尽力されたと思いますが、去年に続いて男性が多く、女性が少ないなと思いました。男の子、女の子というのが、この時代に合わないのかもしれませんが、せっかく華やかな振り袖姿の女の子が大半を占めている二十歳のつどいなので、女の子が実行委員で、ちょっとした華にもなるのかなという思いもありました。

あと、もう一つ思ったのは、いつも二十歳のつどいの記念品は実行委員が選ばれますが、それを選んだ思いのようなものを聞けたらと思います。毎年、何を賞っているのかなとしたりもしますので、実行委員の方達がこういう思いで、僕達はこれを選びましたっていうのがあったらと思いました。今年と去年、同じような物を選んでおられたと思いますので。

[川中 次長]

あいさつの中で、最後のほうに少し言っていたと思いますが。

[佐野 委員]

けれども、お箸の時とか鞆の時のようにもっと言葉があればと思いました。今回のように保護者もたくさん来られている中だと、今の子ども達の選ぶ思いをもっと聞けたらと思いました。予算の中で選ぶので、品物も限られるとは思いますが。

それからもう一つ、せっかく八幡市の主催する二十歳のつどいですので、八幡市内の企業さんが作られている物を提案されるというのも、地元の企業の応援も兼ねて、あってもよいのではないかと、何年も前から思っておりました。八幡市教育委員会もいろんなところで集まりがあったりするじゃないですか。竹の問題とか観光協会との取組とか、そういうのを見ていると、あそこの商品をこの中で取り入れられたらという思いがあったりするのです、そのあたりで記念品の提案ができたらいいのではないかとことを思いました。

もう一つ、親としての目線からですが、家庭での指導なりがあるかとは思いますが、振り袖を着ている女の子達に、ショールの扱い方を教育委員会として八幡市として、教えてあげることができればと思いました。ある程度のTPOではないですけれども、建物の中に入るときは、ショールは外して膝に置きましょうというようなことを、教えてあげることができればと思いました。多分、子ども達は初めて着物を着ると思いますから、今のお母さん達自身も着物を着る機会が少ない中での、あのような姿だと思います。建物の中に入ったらコートを脱ぐのと一緒に、ショールを取って、市長や来賓の方の声に耳を傾けましょうという感じで、そういう教育ではないですが、お知らせみたいな形でやんわりと教えてあげることができたらと思います。八幡市で、こども未来部として、教育委員会としても教えてあげることができたら、次の社会につながる何かにならないかなということも思いました。ただ、本当につつがなく終わったので、とてもご尽力されたと思います。ありがとうございました。

[教育 長]

他にこのことについて、何かありますか。

[長尾 課長]

記念品の選定理由を言うべきだということについてですが、品物も含めて実行委員のほうで決められておりますので、このようなご意見があったということ、来年度の実行委員会選定される際には、お伝えするようにしたいと思います。

それから、ショールの扱いのことですが、そのあたりも注意するようにお願いしたいと思います。

[佐野 委員]

余談ですが、今年は全員での開催でしたが、去年は2部制だったじゃないですか。そした



	<p>ら、校区ではっきりと分かれたんですよ。ある校区の二十歳の子達は、みんなショールを外して座っているんです。でも、違う校区はそのままだったので、学校の色がはっきり出たなと思いました。それで今回、全員が集まった時はどうだろうと思ったら、明らかにカラーが出ていたので、そのあたりでやはり、みんな一緒にショールの扱い方を覚えて欲しいと思いましたので、何かうまく伝達ができたらと思います。</p>
[教育長]	他に何かご意見等ございませんか。
	無いようでありますので、これにて報告事項を終結いたします。
	次に、3. 議題に入らせていただきます。(1)「八幡市の教育行政について」、を議題いたします。
	3. 議 題 (協議事項)
	(1) 八幡市の教育行政について
	本日、案件はございませんが、委員の皆様からご意見・ご質問等、何かございますか。
[狩野委員]	コロナのほう落ち着いてきているのかどうか分からないのですが、インフルエンザが出てきているということを伺いました。今、園や学校において、どのような状態か教えていただけたら嬉しいなと思います。
[高瀬参事]	今、園のほうでは、インフルエンザはそれほど流行っていない感じですがけれども、コロナがやはり少しずつ、また出てきている状況です。今日、訪問していただきました第四幼稚園ですが、昨日から学級閉鎖を明日まで、3日間させていただいております。報告が遅れまして申し訳ございませんでした。幼稚園、保育園、こども園も目立った形跡とかはございません。
[川中次長]	小学校、中学校についてもインフルエンザは、ぼちぼちという形で、大きく発展しているような学級閉鎖につきましては、今のところ、小・中学校とも0という状況です。コロナについても、基本的には、家庭内感染の子ども達が、ぽつぽつという形で止まることはないですし、出現はしています。けれども、基本的には、そんなに一気に爆発的にきているとか、インフルエンザとコロナの同時流行というような形のイメージは、現時点では無いかなというふうに聞いております。
	ただ、発生自体はしておりますので、学校ともに、当然、基本的な感染対策については、十分指導をしているところでございます。
[教育長]	他に、ご質問等はございませんか。
[橋本委員]	いよいよ新しい年度をにらんで、予算についてもですが、次のいろんな事業を計画されているところかなと思います。いろんなものを考えながら、要求されている、あるいは決定しているところではないかと思えます。何よりもやっぱり、初めにもありましたように、こども未来部ができましたと、そしたら、次年度、これに伴って大きく変わるころは何かということ、どうしても考えざるを得ないと思えます。また、変わった以上は、それに見合った施策をより一段と重点的に進めていかなければならないと、こういう段階ではないかなと思います。今はもうすでに考えておられ、お教えいただけるのであればお願いします。この大きな改変に伴って、それを活かした事業展開、次年度へ向けてどのようなものがあるのかというあたりのところをお伺いできたらと思います。
[辻部長]	こども未来部が1月から発足したのですが、実際のところ予算というのは、大体、10月、11月に策定しまして、12月段階で、おおよそ固まってきている状況です。ただ、今時点では査定段階でございますので、公表のほうは、まだできない状況です。こども未来部として、大きな取り組みというのは、正直、今のところは無いので申し上げられませんが、学力向上等を目指した取り組みなどについて、最終の整理をしている段階でございます。
	令和6年度になれば、ただし市長選挙でございますので6月議会での計上になりますが、今度は、こども未来部として、統轄的に、新たな取り組みを行うという方向性になるかと思えます。
[橋本委員]	予算上は、確かにかなり確定してきていると思えますが、施策としては予算を変えなくても、それなりに重点を移すということできるといえる部分も、残されているのではないかと



思います。要は何が言いたいかと申しますと、現場の者にとって予想されるのは、新しいこども未来部ができ、子ども中心に、保・幼・小、就学前から小・中も含めて、特化したものを市長さんは強調されているからこういう組織再編をされたのだと。そしたら、どう変わるのかということ、どうしても何らかの形で言葉だけでも言ってあげないと、なかなか変化は起こしにくいと思います。これは市の内部のことなので、あなた方現場は関係ないですよと、これではちょっと無責任になりますのでね。そんなことはないと思いますけれども、やはりそういった新しい、子どもを中心としたところで、こういったことを強調したい。こういうところに重点を置いていきたい。あるいは施策としても、何か名称変更でも何でもそうですけれども、出来たらそういうことで、これを強調しているんですよ。今までよりもここを中心にやりますよという、何かメッセージというか発信が、4月1日に、あるいは校長会ででも、準備できないかと思います。恐らくされると思いますが、そのあたりも考えていただければと思っています。

それから、もう一つ、「八幡市の教育」についてですが、これはどのようにされるのか。これはこのままでしょうか。これはこのままで変えないのか、変えなければ変えないでいいのですけれども。

[川中次長]

基本的なところでいきますと、あくまでも教育委員会としてのまとめになっておりますので、先ほどもありましたが、教育委員会の事務局としてこども未来部があるという位置づけは変わっていません。ですから、当然、こども未来部が今回所管する内容についてのまとめというものは、現行的なものも含めて、作っていくものではないかなというふうには考えています。ただ、中身については、今であれば、例えば、生涯学習が入っておりますけれども、そこに当然、保育園や幼稚園、放課後児童健全育成施設の内容等、今回、新たに所管している内容を含めて、まとめた内容になっていくのではないかなというふうに考えているところであります。

先ほどの橋本委員のお話ですけれども、確かに、爆発的にすぐ化学変化が起こると思っ
てはしません。ただ、1月10日にこちらの庁舎に来まして、私もなかなか落ち着かないと
ころに座っているのですが、様子を見ておりますと、職員間の連携というのが、割とまあ
あうまくいっているかなというふうに思います。例えば、就学前施設のことであります
と、今まで1階だったのが、同じフロアの隣にいますから、今日も学校教育課の職員が
子育て支援課のほうに行って話をしていたり、家庭児童相談室を所管する家庭支援課の
ほうに行って話をしていたりしています。また、このフロアの中に生活保護を所管する
生活支援課もあります。当然、要保護の子ども達もいますので、そういうところとの
連携も含めて、非常にしやすくなったなというのは、改めて今ざっと見ている中
でも、そういう動きができていないかというふうに思います。やっぱり、一番大事な
のは、今まで割と学校は学校だけというところがあったのが、非常に顔が見える
関係、同じフロアで職員同士の顔が見える関係にいますので、そのあたりが一番
大きな変化になってきて、具体的なアクション、若しくは、施策、という形にな
っていくのではないかなというふうには今考えているところではあります。私ども
から見ても、やっぱりそこはスムーズになっていっているなと思っ
ているところ
です。

[辻部長]

今、次長が申したとおりですけれども、今回、子どものことは全てこども未来部で
ということになりましたが、学校、就学前施設、放課後支援や子育て支援センター、
それぞれの業務で大きく変わる、すぐに変えるということは、私は考えておりませ
ん。消極的と思われるかもしれませんが、それぞれの業務はそれぞれでやっていっ
ていただく。そして、今回、こども未来部になったことによって、それぞれの連
携です。保・幼・小もそうですし、放課後児童クラブとの連携、それが勿論、ワ
ンフロアになったことで、人的な交流も先ほど、次長が申したとおり、スムー
ズにいきます。そちらのほうで出来たら一体となって、何か事業といいま
すか、取り組みができたなら、そのあたりは今後、考えていきたいと思っ
ております。

[狩野委員]

今のお話を伺って、すごく嬉しいなと思いました。行政の中でね、一人の子どもを通して、



	<p>つながっていく。それが、園とか、小学校、中学校という形で、八幡市の子どもを育てるという観点からも、行政がまずつながって連携しあって、子どもを育てていくという絵ができてくるというのを感じました。これからも本当に進めていただいて、是非、行政から発信し、現場も同じように連携して、育てていってもらえたら大変嬉しいと思いました。</p>
[教 育 長]	他に何かございませんか。
[佐 野 委 員]	部活の地域移行の件ですけれども、先日、京都府の総合型地域スポーツクラブ連絡協議会のセミナーに参加させていただきました。そこで、八幡市として打ち合わせがあったこと、大体2月の中頃には大まかなところが出るということをお聞きしましたが、今のところ、八幡市としては、どのような動きになっていますか。昨年、11月にもお聞きしましたが、今の現状はどのようになっていますか。
[川 中 次 長]	現在、準備委員会を設立しようと、京都府の地域移行に係るアドバイザーに来ていただき、お話を伺う中で、うちの準備委員会をまず立ち上げようとしているところです。準備委員会を何のためにするかというと、要は、来年度に、実際の検討委員会を立ち上げるためです。その検討委員会の中身であるとか人選も含めて、準備委員会のほうで、検討していただきます。大枠を決めたうえで一年間くらいかけて、子ども達とか保護者へのアンケートも実施して、令和6年度から試行的な形で取り組みができないかなというのが、今現在の見通しと計画でございます。
	その検討委員会については、現在、予算要求もしておりますので、当然、学校だけではなく、地域の方とかスポーツ協会の方にも入っていただき、幅広くご意見をいただきながら、進めていきたいなと今、考えているところでございます。
[佐 野 委 員]	ちなみに、検討委員会の中に、八幡市のスポーツ推進委員が入ってないのですが、他の市町では意外と入っていて、この前のセミナーで聞いたところでは、北部も南部も中丹のほうも入っておられるのですけれども、それは何かありますか。
[川 中 次 長]	まだ、検討委員の人選がすべて済んでいないということと、あくまで準備委員会は、検討委員会をどうするかという準備を立ち上げているところですので、まあそこでいろいろとご意見を、府のアドバイザーからご意見をいただきながら、八幡市としては、来年度に向けて立ち上げていきたいと思いますところなんです。
[佐 野 委 員]	来年度というのは、この4月からということですか。
[川 中 次 長]	そうです。令和5年4月からです。それに向けての、今、準備委員会を立ち上げている状況です。
[佐 野 委 員]	だいたい2月中頃には、国として、日本中学校体育連盟への支援が決まるということだったのですが、その後ということですか。
[川 中 次 長]	そうですね。一応、スポーツ庁のほうも当初であれば3年計画だったのが、それも今、見直しをかけているというふうにも伺っております。ですので、具体的にどういう形が子ども達にとっても、学校にとってもいいのかというのは、正直なところ、なかなか答えが無い、ベストな答えは無く、よりベターな答えという形になってくるだろうと思っています。本市の場合ですと、割とコンパクトな街でもありますし、今後は、やはり子ども達の人数の問題も出てきます。出来る限り、いろんなスポーツに触れさせてあげるためには、一つの学校ごとにするよりは、市全体でしたほうがより有効的かなという思いは持っています。けれども、それも含めて、今後の検討委員会での審議というか、検討していただくような形になるかと思っています。
[佐 野 委 員]	セミナーの中で競技スポーツの在り方について、すごく討論がありました。それからやはり、現場の先生達の声も取り上げないといけないだろうということと、あと競技スポーツと競技スポーツではない部分もある。それと、文科系のクラブに対しても、それから以降に考えていかないといけないので、検討員会では今はスポーツに関してのこと、体育会系のことですが、その後に、そのあたりのことも、次々と考えていかれるという状況で、今は考えておいてよろしいでしょうか。
[川 中 次 長]	はい。文化的なところについては、基本的にまず、土日の部分で地域移行という形で考え



ております。土日で文化的なクラブで言いますと、八幡市の場合では、吹奏楽部しか今のところ考えにくいかなというふうに思っています。そのあたり、吹奏楽については、中学校吹奏楽連盟などを使いながら、一定、検討はできるのではないかなというふうには思っています。

佐野委員がおっしゃっていただいたとおり、競技スポーツは、要は、競い合うというか高めていくというイメージももちろんあります。それと同時に、先生方の働き甲斐、働き方改革の問題とどう絡めるかという難しい部分もありますが、やっぱり部活動をしたという先生方も実は、結構な人数おられます。その先生方の思いにもどう答えていくのかということも、やっぱりあるかなというふうには思っています。そのあたりも含めて、様々なご意見をいただきながら、本市としての部活動の在り方というものを、一旦、取り合えず試行してみる中で、またそこは見直すべきであれば見直していくような形になっていくのではないかなというふうに考えています。

[佐野委員]

他の市町は、地域総合型地域スポーツクラブを立ち上げてそこからという意見が多々ありましたが、八幡市はそうではないというスタンスで考えていくということをお聞きして、なんとなく概観ができてくるのかなというふうに思いました。それは絶対賛成だと思います。セミナーで、長岡京市のスポーツ支援員の方とお話をしたのですが、長岡京市は八幡市とほぼ同じ10小学校の4中学校で、各小学校ごとに地域総合型スポーツクラブを作りたいということで、今、頑張っておられるようなことをおっしゃっておられました。各市町のやり方というの、その特色があると思います。八幡市は、地域的なことや立地条件等、いろいろと全く違う部分もあるので、八幡市独自で、子ども達がスポーツを楽しくできるようにやっていけたらと思います。

それから、セミナーの中で大学の先生から、ドイツと比べて日本のクラブ活動に関してすごく悲観的な印象があるというお話がありました。日本人はクラブを余暇にしていないから、子ども達がすごく苦痛に感じているというような捉え方をされていました。そのあたりも、スポーツと余暇という部分で、八幡市独自の部活動の地域移行にできたらと思いますので、これからよろしくお願いします。

[教育長]

他に、ご意見、ご質問等何かございますでしょうか。

[橋本委員]

先ほどの件に戻りますが、「八幡市の教育」に掲載している教育方針、「学校教育の方針と目標」と「社会教育の方針と目標」については、国の教育委員会制度に則って変えないということですね。しかし、今の話もありますけれども、個々の施策について非常に変わってきているのを反映させようと思うと、例えば、図書館はもともと社会教育の中に入っていますね。これは、今、こども未来部で引き受けていくということですね。具体化しているような目標として取り組もうとすると、どっちに入れるかということになりますよね。教育委員会として決裁するのは、学校教育についてもそうだし、社会教育についても、最終的に判断しなくてはならない。こういう構造ですよ。このあたりがもう一つすっきりとしていないので、どういうふうに考えたらよいか教えてください。

[辻部長]

実のところ我々も今まだ、ストーンと落ちていない部分がございます。橋本委員がおっしゃった「八幡市の教育」の関係も、特に社会教育についてですが、その部分をどういうふうに整理していくかということは、正直、いろいろな場面で、今後もでてくるので、我々も、そこで一つ一つ組ほどいてやっていかないと仕方ないかなと考えているところです。

図書館とか文化財は今まで通り教育委員会であり、こども未来部ですが、特に、難しいのは、政策企画部の生涯学習課に移管された社会教育の大人の部分です。文化事業、スポーツに関係する部分については、今ここでスパッときれいにお答えできれば良いのですが、今、私どものほうも、試行錯誤というわけではないですが、探りながらやっているところも正直なところございますので、今後また、整理しましたらお伝えしたいと思っております。

[橋本委員]

その通りだと思うので、実際のところ、これをさわるわけにはいかないですよ。

[川中次長]

毎年、2月の教育委員会で、「学校教育の方針と目標」や「社会教育の方針と目標」を提案させていただき、ご意見をいただいて直していったというのが、今までの流れです。け



れど、そういう形でいいのかどうかも含めて、そこに載せるものとして、何を一体、八幡市の教育委員会の方針として載せていくのかということ自体、整理しきれない部分がございます。今、部が変わりまして、部長も先ほども申しましたけれど、社会教育の部分をどうしていくのか、どう変えていくのかというのは、事務局側でも整理はしきれないところがございます。そのあたりも含めて、あと1か月くらいで、2月の教育委員会の時には、また一定のことをお示ししなければならないと思っておりますけれども、その部分については、まだ、なかなか難しいかなというふうに思っています。

[橋本委員]

そこにやっぱり教育未来化を発する主語がね、出てくると思います。なぜこれに変わってどうしたいのかというようなことですね。これは、言葉上の表現ですけども、そういうものが、本当は然るべきなのかなというようなところが、もやもやとしたところです。

[教育長]

他に何か、ご意見、ご質問等はありませんか。

[橋本委員]

要は、校長を長くしておりますので、皆さんもそういう立場におられたかと思いますが、そういう時に、職員、あるいは子ども、保護者等に向かって、やはり述べないといけないですよ。学校は学校なりの表現があります。そしたら、教育委員会として新しい体制の下で変わっているわけですから、どういう言葉を発するかということです。これはやっぱりあると思うんですよ。ただ今までと違って、こういうような子どもを中心とした組織改編をしました。そしてこういうことをする。改編をして、そしてどうなんだということです。次のところが、どうしても何か要りそうな気がしまして、それを教えて欲しいなというところです。そんな大層なことを言っているではなくて、一番根幹になるような言葉ですね、大方針、目標、スローガンのようなものが出てくると思うんですよ。最小限、そういったものがあってしかるべきかではないかと思いますが、これは意見ということで留めておきたいと思いません。

[教育長]

他に何かご意見、ご質問はありませんか。

[狩野委員]

ここで出してもよいのか分からないのですが、幼稚園の園児募集が終わったと思うのですが、来年度はどのような状況で進めていかれるのでしょうか。

毎年、毎年、子ども達が減っていますので、来年度、幼稚園はあるのだろうか、無いんだらうかと、とても心配になりますので、各園、どのような状況であるのか聞かせていただけたらと思います。

[成田課長]

園児募集のことにつきましては、本委員会で、今後、またしかるべきタイミングでご報告はさせていただきますが、現在の速報値で申しますと、八幡幼稚園と八幡第三幼稚園はそこまで園児数は落ちてはおりません。ただ、橋本幼稚園の新入園児は恐らく一桁、片手程度になるのかなというのと、閉園予定の八幡第四幼稚園は今のところ、新規入園は無い見込みとなっております。

[教育長]

他の何かご意見、ご質問がございませんか。よろしいでしょうか。

それでは、無いようでありますので、これにて議題を終結させていただきます。

次に、4. その他に入らせていただきます。

本日の、「園・学校訪問について」ご意見等はございますでしょうか。

4. その他

・園、学校訪問について

[狩野委員]

今日は、八幡第四幼稚園とくすのき小学校に寄せていただきました。第四幼稚園のほうは、コロナで1クラス学級閉鎖になっておりまして、4歳児だけがいるというような状態でしたが、この寒い中でも子ども達が広い園庭の中で走り回って、それぞれ好きな遊びを担当の先生、支援の先生と一緒に全身を動かしてしていたという状況を見まして、嬉しいなと思いました。それで、来年度、園児の募集が無かったということで、5歳児の1クラスだけになっていくことが予想されます。園長先生に、来年度はどのように進めていかれるかということをお伺いしたら、まだ今のところ、他の園との交流に対しての計画は立てていないというようなお答えでした。園長先生にも申したのですが、年度が始まるとどこの園も忙しくなるので、今から交流園と計画的に、子ども達の不安を無くすために少しでもいろんな方とのつな



[高瀬 参事]	<p>がりができるような、園運営をしなければならないのではないかと、というようなお話をさせていただきます。子育て支援課としてはそのあたりどのように考えていらっしゃいますか。</p> <p>八幡第四幼稚園のほうは人数が少なくなってしまって、八幡第三幼稚園との交流を今年度途中からずっとやっていただいています。異年齢との交流が八幡第四幼稚園はできないので、来年度も引き続き、そのあたりで行ったり来たりという交流をしてもらおうかと思っています。</p>
[狩野 委員]	<p>交流については、今年度も、年度当初はそういう予定でいたけれど、2学期以降なかなかできていないということでした。本当に豊かに、少しでも豊かに、いろんな方と出会うことで子ども達の心の育て、体の育てにつながるように、子育て支援課からもいろいろとご支援していただけたらと、願っておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
[教育長]	<p>他に何か、ご意見等はございませんか。</p>
[狩野 委員]	<p>くすのき小学校のほうですけれども、寄せていただきまして、学校の中をいろいろ回らせていただきました。くすのき小学校の状況を聞いていますと、外国人の方、特別支援のクラスが五つある。そして不登校の子どもも多数いるということで、本当に大変な状況の中で、先生方がご努力されているかなと思います。校内には、本に親しむようにしたいという願いで、あちこちに本のコーナーを作っておられます。それから、掲示物にしても、人を大切にするというような掲示物、「友だちのいいとこ探そう」というようなものも、たくさんありました。いろいろな課題が多い学校だけに、特に人権のことを大事にした教育を進めようとしてきているということ、を、ひしひしと感じてきました。</p> <p>ただ、学校内を回らせていただいている中で、床がボコボコしていたり、廊下が古くなっており、校舎内全体がずいぶん汚れてきています。やはり学習を進めるうえでは、清潔な学習環境というの、大事ではないかなということを感じましたので、是非、くすのき小学校の施設整備をお願いしたいところを強く感じました。</p>
[教育長]	<p>それについては聞いておりますので、今後、改めて具体的にお伝えします。</p>
[狩野 委員]	<p>今申しましたように、外国人の方だったり、特別支援の方だったり、不登校の方だったりということで、本当に先生方がとてもご努力されているということを感じました。市としても様々な支援体制が必要ではないかなと思います。それと、今、翻訳ソフト等を使って、最低限の会話をしているということですが、今、八幡小学校にある日本語教室、そういうものが、前回、男山第三中学校に行った時にもおっしゃっていたのですけれども、男山のほうにもどこかに、拠点としてあってもいいのではないかなということを感じました。そのことについて、検討されるご予定等はございますか。</p>
[川中 次長]	<p>日本語教室ですけれども、現在も実は、八幡小学校のほうは、定員というか、授業日数がほぼ埋まっています。要は、新規になかなか受け入れができない状況になっています。私もとしまして、当然、必要性は感じておりまして、今年度の加配の要望も行いました。また、現時点でも、男山地区の中学校のほうのどちらかに、加配の要望をかけているところでございます。ただ、日本語指導については平成29年に、18名で一人という形で定数化されています。しかしながら京都府の場合は、加配状態になっておりますので、加配という形でくるかどうかは、今の現状ではなかなか難しいと考えております。それから、外国籍の子ども達の問題としては、ずっといる子はずっといるのですけれども、出入りが激しい状況でもあるので、なかなかきちんと数としてカウントができない等の課題もいろいろあります。その点も考慮しながら、できれば男山の中学校のほうに、日本語教室を開設して欲しいという要望を、京都府教育委員会のほうに加配計画という形では出しているところです。</p>
[教育長]	<p>他に何かご意見、ご質問はございませんか。</p>
[橋本 委員]	<p>私も感じた感想と並びに意見的なことを申し上げます。八幡第四幼稚園ですが、来年最後の方向で進んでいるということで、やはり次年度に向けて、先ほどありましたように、計画等について、ちょっと心配をしております。具体的には、第三幼稚園ともっと積極的に、逆にこちらからも声をかけてあげないと進まないような感触を受けましたので、できたらそういうアプローチをお願いできたらと思います。</p>



先ほどのこども未来部の新しい方向性と併せて、やはり就学前教育というのは、大きな改革の最たる焦点化された部分ではないかなと思います。そのあたりに、思い切った方向を示すような言葉が出ないのかなということを感じているところです。こども園化に向かうということも含めて教育課程について、もうかなり進んでいるので、そういうものを小学校と連携した形で具体的に幼稚園だけではなくて、保育園とこども園、幼稚園という4時間分の教育カリキュラムだけではなくて、小学校と結び付けた形の、方策、方向性、あるいは取組、何かひとつ突破口を開けないかなと思っています。だから、やはり幼稚園、就学前と小学校1年生の接続部分ですね。確かに、研修等はいろいろと立派なことをされていますけれども、具体的な取組をとおして、お互いに参加して学び合うという機会は、残念ながら無いように私は伺っております。やはり、具体的な動きというのは、何か一つの取組をとおして学び合う中で共有されていく。そういう学びというものが求められており、そういうものを共有することで、実際に、具体的な日々の記憶に反映されるものかどうかというふうに思っています。是非、こども未来部の就学前教育の威信をかけてでも、カリキュラム化と合わせて、小学校の接続の具体的な取り組みを生活科との関係でもいいかと思えます。全部というか、どこかの学校とどこかの幼稚園ということでもいいかと思えます。次年度の研究開発に名乗りをあげるようなところが出てきて、それに何かをつけられると、あるいは人的なアドバイザーを入れるというようなことで、突破口的なものが開けたら、一歩進むのではないかなと思います。個々の研修は本当に素晴らしいです。この前見せていただきましたが、一生懸命、職員の方、先生方も頑張っておられます。けれども、残念ながらそこをつなぐということは、学校同士では時間もかかるし、なかなか思い切ったことができません。このあたりは、行政がひとつ先に一歩入っていかざるを得ない課題ではないか、というように感じました。それがひとつです。

それから、くすのき小学校のほうですが、校長先生は、去年は、学校の状態を十分に掌握できていないとおっしゃっていましたが、今年は、具体的に実態等を把握するアンケート等を行いながら、具体的な資料を出して、方針を明確にご説明されておられました。研究既往というのは、中心は、平成31年、令和2年、3年と、ずっと続けて京都府小学校教育研究会の生徒指導部研究協力校ということでもまとめられております。見ていて素晴らしいなと思っております。こういう取り組みがどこの研究既往とか実践を見ても、素晴らしいのですが、これを基に、どのように学校の実態改善につながっているのかということについては、私はまだ疑問を持っているところがあります。例えば、不登校について改善しましたかと伺うと、いやそれはなかなか改善していないんですよという答えです。それは新たな難しさが出てきて基礎条件がありますから、一概には申せませんが、しかし取り組みとしては素晴らしいものをされているし、証明などもされている。こういう生徒指導で頑張られたことが学力にどういうふうに反映されているのですかと伺っても、これもやっぱり明確化ではないんですね。今日、申し上げたのは、学習集団、生活集団、生徒指導のほうが生活集団作りでやったのであれば、そういう生活集団が学習集団に跳ね返るような、そういう関係性が弱いんじゃないかなということです。ただクラスの中においても生活グループ、学習グループがあればその関連性をうまくつけるような形が必要ではないかと思えます。せっかくグループ学習が生活場面では成功しているのに、案件上見ても、それが学力に反映されていない、学びのところに反映されていないということが、惜しいなと思えます。こんなに実践されているのに、そのあたりがなかなか進まないのが惜しいなと思えます。これだけ3年間、4年目ですか、やられてきておきながら、うまく相互関連性で進んでいかないあたりが、大変だという実態が含まれつつも、そのあたりのところはなぜですかと、教えていただけませんか、と、申し上げました。

市長さんのほうも、学力をどのようにして上げるかというところを、非常に要求されてられると思います。実態を踏まえると、小学校1年生で、家庭の状況によって大きな学びの差があるということです。「あいうえお」が書けません、簡単な漢字が書けません、というところのいわゆる生きていく上で最小限必要なものが、なかなか担保されないということです。



そのあたりをどのようにしたらいいのかと、もちろん、個人指導等をされているようですが、LDの問題もありますし、ただ単に残してやらしても、そのまま学力につながるかどうかという見極めも必要になってくるかと思えます。タブレットもあるし、そういうソフトもおそらくあると思うので、そういったものをうまく使いながら、カリキュラムの中にうまく落とし込んでいく。あるいは放課後であればそういう手当をすると、基礎的なミニマムエッセンスをしっかりと達成しながら、次の学年にステップを積んでいくという歩みのようなものが、もう少し明確に明示されてもいいのかと思えます。もちろん学力調査でやられてはいると思えます。しかし、「あいうえお」が書けないで、5年生、6年生といわれても困るわけです。そういった最小限必要なものは、これが無いと次にいけない、次に進めないというものを明確にして、そこは達成してくださいと、そのためには、人的なものとかいろんなものを出しますよというくらいのメリハリが無いと、結局つけを回して取り残しができると思えます。あるいは不登校になったりとか、様々な別のところに行ってしまうのではないかとメリハリの部分、ここは絶対にというようなあたりを指摘する必要があるのではないかと感じたところです。

それで、新たにええられたのは、校長先生からは、要は、教科担任制ということですが、交換授業と表現されていましたが、3年生から実施されています。全ての授業ではないですが、担任の先生が、3クラスあれば3クラスで、私は算数を教えます、それでは国語を頼みますねと、こういうのを交換授業とおっしゃっていました。教科担任制で、担任の先生だけの目でクラスを見るのではなくて、学年の他の先生が目を光らせるということです。学年全体の子どもを見ると、こういうことで、不登校の早期の発見にもつながりますねと、あるいは、授業の質的な担保もできますし、授業軽減、働き方改革にもつながりますねということです。それから、1年生から3年生でこういうふうに変わっていくんですよと、発達段階が変わるんですよということを、職員にも子ども達にも見定めながら、学びの形が段々変わっていくんですよということを、ただ同じような学びを6年間、ざっとつなげるのではなくて、システムの物、構造的な変化をもたらしていく、そういう中で変化をつけていく。こういうようなものを進めていくということもやはり大事なことです。併せて、今のようないいところがあるというところ、何かそういったものをうまくまとめながら、うまくまとめたら重点項目をしっかりと、ここは譲れない、ここは最小限こうしていきましょうというものを打ち出せないかと思いました。せっかくいろんな実践をされて成功しておられるので、交流して確認されているわけですから、そこを何かもう一歩進んだ方針という形で打ち出せないかということを感じました。今までから申し上げておりますが、大体以上です。

[川中次長]

まず、就学前のほうですけれども、コロナ前は本当に多様な取り組みをしておりました。もうすぐ1年生体験入学推進事業という形で年間通じて様々な取り組みをしていたのですが、コロナ禍でなかなか、小学校と園間の取り組みができなくなってしまっています。私どもが、あの時に言っていたのは、基本的に、その子が行く小学校というつながりではなくて、あくまで就学前教育と小学校教育をつなげるということです。だから、園と学校で交流するので、行く学校とのつながりではないという形で、かなり学校とはやり取りをし、指導もさせていただいていたところです。出前授業であったり、給食体験であったり、避難訓練などの行事を一緒にさせていただくとか、様々な取り組みを通じている中で、先生方の意識もかなり変わってきたのではないかなというふうに思っているところです。コロナ禍で、次のステップをどうしていくのか、本当に戻していくのか、新たなステップアップをしていかなければと思いますが、基本的な考え方としては、あくまでも就学前教育と義務教育をつないでいく。だから、その子が行く学校とつないでいくのではなくて、もう少し広い形でつないでいくべきではないかなと考えています。

今後、就学前施設の再編等もいろいろございますので、そのほうで逆にやりやすくなることもあるかと思えます。そのあたり学校についても積極的に指導していきながら、要は、学校からのアウトリーチと園側からのボトムアップというのか上げていく形のものの、両方でうまくいろんなものができていけばいいかなと思っているところです。具体的には、本当



は1年生とか2年生くらいが園に行つて1日遊ぶとか、丸ごと1日、幼稚園の子と遊ぶとか、逆に、6年生くらいの子が半日くらい、保育園・幼稚園に行つて遊ぶとかです。今、兄弟関係も少ないですし、先ほど、異年齢の集団という話がありましたけれど、逆に、小学生が小さい子と遊んだことが無い子がたくさんいるのではないかと思います。そういうところから生きる力であったり、ものを教える難しさだとか、そのためには自分がわかっていなければならないとか、そういう気づきが子ども達の学習意欲につながっていくのではないかなというのは、これは個人的なところで思っているところです。それから、ご指摘のとおり、就学前教育と義務教育のつなぎというものは、本当に大事にしたいと思っておりますので、新たな展開を、是非、ご意見をいただきながらできればと思っているところです。

[高瀬参事]

今年度も、やっと接続のプロジェクト会議を開くことができました。連携をとっている小学校と幼稚園、保育園の先生方が集まっていたいて、今年度、どうやってしていこうか、でもコロナの時期なので、出来ること、出来ないことがあるので、出来なければ、先生だけでも話し合おうとか、そのあたりの話し合いをしてもらっているところです。実際は、今現在、どのように進めてもらっているかというところを、次回のプロジェクト会議で発表してもらえたらと思っています。

[川中次長]

学力の問題ですけれども、いろんな研究を、各学校で自分達で研究テーマを決めてやっているんですけれども、その検証という意味では、確かに委員おっしゃるとおり、なかなか弱いところはあるかなと思っているところです。そういう意味では、外部の方が入ってくる、教育委員さん含めて、そういう形で学校に対して返していただけることは非常にありがたいと思っています。私どもも含めて、学校がやっていることをどう返していくのか、そしてそれをどう評価していくのかというのは、なかなか内部だけではできないので、例えば、大学の先生方を使うとか、よりステップアップしていく方向性はあるかなと思っております。ただ、現実的には、くすのき小学校も非常に厳しい状況ではあります。私どもも、言っているのか、学校現場にマンパワーが足りないというのを痛感しています。今も、加配とか京都府教育委員会の人事のほうでやっていますけど、子ども達が減ってきていますから、今までの少人数授業とかの加配があったのが、そもそも少人数になってきていますので、そういう加配がつかなくなってきた状況にあります。学校によっては、加配が一人もいないような状況で、全くマンパワーが足りておりません。それでも、子ども達の課題は複雑化してくるし、多様化してきます。特別支援だったり、日本語指導だったりというニーズも非常に高いので、通級指導も特別支援学級もかなり増設はしていますけど、正直なところなかなか追いついていないのが現実かなと思います。八幡市教育委員会としても、学習支援員は十分とは言いませんが、一定数確保して各学校に入れていますが、本当の教職員の数自体を今後も要望していきますけれども、このあたりは国のほうも含めて、何とか考えていかないといけないのではないかなと思っているところです。

[橋本委員]

だからね、発想を変えていただきたいということです。クラスで40人ずつやっているのをもうやめて、学年全部をまとめて先生が教えればいいのかというようなものも含めると、働き方改革にもつながるし、授業の質改善にもつながるんですよ。必要な時は個別にいくと、また必要なときは全体指導で力のある先生ががんと入って、他の先生は学ばばいいんですよ。子ども達も高い質の授業を受ければいいのかということを考えつつ、そうすると、施設の問題が出てきます。だから、段々人数が減ってきて、今まで1クラスしか入れなかったのが2クラス分、全部まとめて入る。あるいは、教科によっては、学年全体まとめてできるようなことも、あるいは時間はできるんだというようなあたりも含めて考えていただきたいということです。限りある人材ですよ。そういう働き方改革につながるようなものも含めて、あるいは、教育の質の面も含めて、低学年ではそういうことはしないけれども、高学年になればそういう授業もあるんだよというようなあたりを考えつつ、いろいろ工夫していただきたいなというふうに思います。まあ、環境の改善といいますか。あるいは、タブレットを使うとか、別の授業のやり方もあるのかもしれない。

[川中次長]

そういう多様な学習形態であったり、学習方法というのはどんどんどんどんやっていくべ



きだと思っています。私ども、学校に情報提供をしていきたいと考えております。それから、ここ数年、以前にもお話をさせていただきましたけれども、学校が主体的に、いろんなことをやるようになってきましたので、学校の主体性を私達も、応援をするようにしております。先ほど、委員がおっしゃっていた教科担任制でありますとか、あれも去年、学校現場が自ら生み出してきているというところもあります。そういう学校の主体的な取組については、今後も応援していきたいし、そういう多様な授業形態等についても事前に紹介していきたいと思っております。

ちょっと余談にはなりますが、教職員も、八幡市の教職員構成からいきますと、育休をとる職員が非常に多くなっております。育休にもいろんな取り方が、今、ありまして、特に、育児短時間休暇をとる教職員が増えてきています。育児短時間休暇ということになると、例えば、9時から2時までの勤務とか、要は1日半分しかいないみたいな状況になってしまいます。その職員が担任を持てるかというとなかなか難しいし、1校に2人程いた場合、なかなか学級が回らない状況になります。必要にせまられて、今、橋本委員がおっしゃたような形のことをしていけないと、本当に発想を変えていけないと、なかなかうまくいかない。加配というの、今の状況ではないので。そのあたりも今、大きな大きな過渡期かと私ども考えています。それは学校も含めて、校長先生を含めて、いろいろ相談にのりながら、多様な教育の質を落とさないで、なんとかうまく回っていくような形では進めていきたいなと思っております。

[教育長]

他に、何かご意見等はございませんか。

[狩野委員]

先ほど、幼・小の連携のことで、本当にプロジェクトチームを作って、幼稚園・保育園・こども園の特性と小学校の先生方が話し合うというのは本当に昔から、私が現場にいた時から、川中次長が中心になってずっと進めてこられていて、本当に八幡市は一步進んでいるかなと、自分が現場にいるときなんかは思っていたんですね。そのご縁があつて、今も、京都府のほうで、なんとか幼・小接続について、お話をさせていただいているのですけれど、実際、他市を見ていると、今本当に子どもがどのように育ってきたか、それから、どう育ったのか、それを先生方がすごく理解して、じゃあ幼児期にはこういうこと大事にしていきたいね、小学校ではこういうふうに育ちをつなげていこうかという工夫を、それぞれの市町で一先懸命やってらっしゃいます。その例としても、なかなか進まなかったという京都の北ですけれども、こども園なので12月28日までやっておられるので、小学校の先生の手が空くときということで、12月27日に研究会をされました。園の様子を知ってほしいということで、公開保育をされて、小学校の先生も参加され、何が育っているのか、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿がどういう形であらわれていて、それをどう小学校につなげたいのかということ、私も一緒にいらせてもらいながら、考える機会等がございました。

今年度は架け橋委員会、架け橋プロジェクトができて、あちこちの市町で、何とかしなくてはということで、進んでいらっしゃいます。京都市の下京雅小学校は、手を挙げてモデル校として進んでおられます。これから、そういう実践例でカリキュラムの接続等もたくさん出てくるかと思えます。本当にコロナ禍で今まで八幡の中で大事にしてきた交流であったり、関係であったりということが、途絶えがちになっていますので、是非、またこれから方法をいろいろ考えながら、本当に先生同士が幼児期の教育を見てこれはどうつなぐのかというあたりを進めていけるように、行政がリーダーシップを発揮しながら、子どもの育ちをつなげていただけたらありがたいなということをお願いしております。

[橋本委員]

この話も結構長いことやっていると思いますので、同じことを堂々巡りになりますが、さきほどのこども未来部の新しい方針のところ、やはりモデル校とおっしゃいましたけれど、研究開発校として指定すると具体的にやっていただくというようなことで、他のいろんな方もそれを見るという機会も合わせて作っていく。まず、指定校とか、開発校とかいうあたりのところを作っていくと。出していった具体的な形で見える形でそういう取り組みを共有するという、この機会に、何かそういうことが打ち出せないかと思えます。このあたり強く感



[教育長]	<p>じております。</p> <p>他に何かご質問等ございませんか。</p> <p>一言申し上げますけれども、組織改正について、いろいろとご意見をいただきましたけれども、組織改正については、一定の理念の基で、こういった組織ができたわけでありまして、その新しい組織を普遍的な組織として進めていくというのが、これからの大きな課題となります。今、委員からご質問をいただきまして、それから事務局からもそれぞれ、回答させていただきましたけれども、今、言っただけで答えられるものと、これからいろんな取り組みを進めていく中で改善していかなければならない部分と、いろいろあったと思います。今後、今いただいたような課題については、新しいこども未来部において、しっかりと取り組みながら進めていきたいというふうに考えておりますので、また、いろいろとご意見をいただきたいと思います。</p>
[佐野委員]	<p>他に何かございますでしょうか。</p> <p>小学校も中学校もあるのですが、職員室はどうして上履きに履き替えておられるのですか。くすのき小学校では、一旦、玄関で上履きを履いて、職員室ではまた、履き替えておられます。以前も、やっぱり、危機管理の部分でいうと靴を履いてもらったほうが先生達にはいいという話をさせてもらったことがあります。今回、くすのき小学校を訪問した時に、下駄箱が職員室の前であって、そこに入れてあったスリッパが、こんなスリッパだったら逃げられないだろうという印象を受けました。わざわざスリッパなり何かに履き替える必要が職員室に、どうしてあるのかなと、ふと疑問に思いました。以前から不思議に思っておりましたが、職員室で履き替える学校、何か所かありますね。</p>
[川中次長]	<p>あります。</p>
[佐野委員]	<p>何か意味があるのですか。最初にそうしてしまったからずっと、慣例で続いているのですか。</p>
[川中次長]	<p>多分、他に、八幡小学校でも履き替えているのではないかと思います。私のイメージでは、〇Ａフロアにしているところは、結構、履き替えているような気がしますね。</p>
[佐野委員]	<p>わざわざ先生が、どうして履き替えないといけないのですか。</p>
[川中次長]	<p>これは、おさえておいていただきたいのですが、職員室はお掃除ができないんですね。だから、そこは、難しいのかなと。</p>
[佐野委員]	<p>以前、配線があるからとか聞いたことがありますが、電話の配線とかね。</p>
[川中次長]	<p>多分、実際問題として、市役所だったら掃除は業者が入っていますが、職員室の掃除は、先生がしているのです。汚したくないという思いがあるのではないかと思います。実は、今、ちょっとそのあたりの問題も聞いているんです。例えば、職員のトイレ掃除を教職員が輪番でしている。それは、本当に教員がしなければならない仕事なのかということ。私は、自分が使っているものは、自分でしたらいいと思っっているのですが。だから、そのあたりがあって、多分、汚したくないっていうような思いから、そうしているのではないかと思います。</p>
[佐野委員]	<p>そうせざるを得ないのであれば仕方ないですが、あのスリッパが、今回、ちょっとだけいけないスリッパが入っていたので。あれでは、地震がきて、子どもたちをどうするかという時に、どうするのかっていうようなスリッパでしたので。職員室に入ってから、足をリラックサさせるのは、いいと思うんですね。そんなのは、普通に〇Ｌさんもしておられることなので。でもあれを職員室で履いていたら、次のステップがワンステップ遅れるので、疑問に思っ、もしかしたら、出来るだけ履き替える必要がないような学校環境にされるほうが、いいのではないかと思っったんですね。</p>
[川中次長]	<p>それは大きな施設整備の問題が出てくるかなと思います。</p>
[佐野委員]	<p>でも、靴には絶対していただきたい。踵のある靴にしたいと思っています。</p>
[教育長]	<p>他に何かご意見等はございませんか。</p> <p>それでは、無いようでありますので、４．その他を終結いたします。</p> <p>次に、配付資料について、事務局より説明願います。こども未来課。</p> <p>５．配付資料</p>



[長尾 課長]	配付資料でございますが、11月分と12月分の定例教育委員会の議事録をお手元にお届けをしております。以上でございます。
[教 育 長]	ただ今の配付資料について、ご質問等はありませんか。 よろしいでしょうか。それでは、次回、定例教育委員会につきまして、説明をお願いします。
[長尾 課長]	次回の教育委員会の日程です。2月22日水曜日、午後2時15分から庁舎5階、会議室2で行います。その後、3時30分から総合教育会議、4時45分から臨時教育委員会を開催予定です。 学校訪問につきましては、11時からさくら小学校となっております。よろしくお願いいたします。
[教 育 長]	5. 閉会 他に何かございますか。無いようでありますので、以上をもちまして、1月度の定例教育委員会を閉会させていただきます。ご苦勞様でございました。

令和5年1月1日付け人事異動内容一覧

こども未来部への異動		新所属	旧所属	備考
一般	喜多 紀子	こども未来課総括主任	福祉総務課庶務係長	

こども未来部内の異動		新所属	旧所属	備考
課長級	佐野 正樹	八幡市民図書館長、男山市民図書館長	八幡市民図書館主任	昇格
課長補佐級	大村 昌義	八幡市民図書館長補佐、男山市民図書館長補佐	八幡市民図書館主事	昇格

こども未来部からの異動		新所属	旧所属	備考
部長級	佐野 泰博	市民生活部参事、市民課長	教育部次長、生涯学習センター館長	

退職者		新所属	旧所属	備考
課長級	南本 晃		八幡市民図書館長、男山市民図書館長	

令和5年八幡市二十歳のつどいの参加状況について

1. 日時 令和5年1月9日(月・祝)
第一部(式典) :10時30分開式
第二部(交流会):11時30分～
2. 会場 八幡市文化センター大ホール
第二部は小ホール
3. 対象 対象者(平成14年4月2日から平成15年4月1日生)
対象者数 649人
当日参加数 455人
(うち市外参加者29人、出席率70.1%)
4. その他 松花堂庭園無料入園者数
新二十歳62人・同伴者66人 計128人